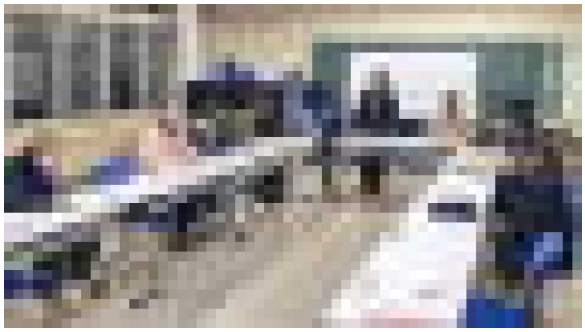
芸術の秋

図工の時間では、写生に取り組む学年があります。

高学年では、電線やタイルなど絵にするのはなかなか

難しい素材にチャレンジします。秋の空気と変わりゆく自然を感じつつ、みんなで和やかに、時に（「時に」？）集中して描いている姿は美しいものですね。対象をよく見て一筆一筆ていねいに描いた作品は、もし形が少しぐらい整っていなかったとしても見る人の心を打つものです。

第２回コミュニティ・スクール協議会



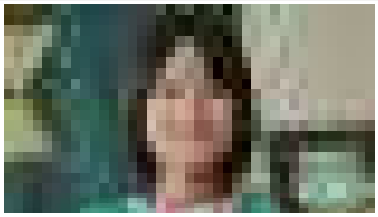
１０月５日に行われました。

学校からは、1学期末に行った「よりよい緑丘小学校をつくるためのアンケート」の結果考察、バス学習や６年生修学旅行のこと、学習発表会や５年生宿泊学習のことについてお話ししました。また、コロナ禍のためか児童同士のコミュニケーション・スキルが下がってきていること、オンラインゲームやSNSでのトラブルについて複数の訴えがあることなどもご説明しました。詳細は、後日「ＣＳ通信」でご紹介します。

児童のネット利用については、コミスクとＰＴＡの共催による講演会「e-ネット安心講座」を１１月２０日（月）夜に開催していただけることになりました。詳しくは改めてご案内しますが、本校での直接参加の他にご家庭でオンライン参加もできる予定とのことですので、ぜひ予定に入れておいて下さい。(11/20月曜日18:30開始です)。

３年 □□□□□さん
３年 □□　□□さん
３年 □□　　□さん
児童詩誌『サイロ』10月号
入　選

5年 □□□□□さん
田浦流空手道十勝地区選手権型試合高学年緑帯以下の部
敢闘賞



帯広柔道少年団Ａ
4年 □□　□□さん
東北海道柔道スポーツ少年団柔道大会
優　勝

6年 □□　□□さん
第50回全道幼児･児童動物画コンクール
北海道知事賞

よりよい緑丘小学校をつくるためのアンケート

表現は少し変えています

●学校全体として、緊急を除き教員が生徒の名前を呼び捨てする必要があるのか、気になっています。
●たまたま先生が児童を注意している場面に遭遇したのですが（声だけ聞こえた)、先生の声掛けがとてもひどく、信じられませんでした。あれでは子どもは何がいけなかったのか、これからどう気を付ければよいのかなど分かるはずがないと思います（その後、別の場所できちんと話をしたのかは分かりませんが)。その子が何をして注意されたのかまでは分かりませんが、あの声掛けはひどいと思います。
●話を聞く前に突発感情的に叱ったりその事についての連絡がないなど気になります。
●去年からベテランの先生方がいなくなってしまった。今年含め来年、高学年任せられる先生がいないんじゃないですか。不安でいます。
○子どもたちの言動を本当はどう感じ、どんな捉え方でいるかなど先生方の気持ちもそこに表れているなら、『寄り添う姿勢』は本人や保護者の救いになると思います。
○個々の能力を目に見えるものさしで伸ばすだけではなく、学級が認め合い育ち合う環境であって欲しいです。認め合うというのが、とても大切な気がします。また、個人的には今年度もたくさんご相談させていただき学ばせていただき心より感謝しております。
○クラスの様子が落ち着いたようなので、安心しました。今後ともよろしくお願いいたします。

川上より～授業中の教師から児童への呼びかけは「〇〇さん」が基本ですが、様々な目的（「ここでは児童との心理的距離を詰めたい」など）で敬称を省くこともあります。また、叱り方については、これもそれぞれの教師が「個別最適化」も含めて頭を痛めているところです。どう説

明・説諭したらわかってもらえるか、児童にわかってもらうにはその場での指導はもちろんですが、保護者の方と目標や手法を相談しながら「約束事を決める」などしながら指導に当たることもあります。一方で、「話を聞く前に突発感情的に叱ったり」だとすれば、修正しなくてはなりません。このアンケートで保護者の方からいただいた意見は、全て教職員と共有しており、それぞれ「どの場面についてのご指摘か」など考察しています。今後も気になる点はお教えください。その教員に直接言っていただくのが早いですが、教頭や校長にお聞かせいただいてけっこうです。

●ランドセルが重たすぎます。置き勉等配慮して戴いておりますが、まだまだ重いと思います。
●最近は登校する時間帯でも暑いので、少しでもランドセルを軽くさせてあげたいので、もう少し置き勉の推奨をお願いしたいです。
●失くしたプリント、欲しいと言ったらよこせ。配ったでしょ？で終わらせるな。親が欲しがってるんだからちゃんとくれ。

川上より～学習のための「許容範囲の重さ」がどのくらいか、悩ましいところです。宿題や家庭学習に必要な資料としての教科書は持ち帰ることもありますし、鍵盤ハーモニカや実技のセット類も持ち運びが複数にならないように時間割や教科の内容に配慮しているところですが、用具の管理のために使用後の持ち帰りをしてもらうこともあります。今後も工夫していきますので、児童の様子を見ながらまたご意見ください。

●□年生で時々、歩いている保護者や中学生をからかっている男子がいる。中学生には目の前に突然行って、「中学生どもがー。」と大声で叫び笑って去って行ったりしている。中学生は女の子でおどろいていた。保護者には石を差し出して「何かと交換して」てとからかっていた。注意をしたほうがよい。いつも同じ男の子。

川上より～学校で見えない部分のご指摘はありがたいです。通学時の児童の様子については、ご意見をいただいた7月のうちに全学級で指導し、申し出のあった児童には担任から改めて指導したところです。その後はどうでしょうか。子どもの家庭での顔は、学校での顔とは違う場合が多いです（大人の、職場での顔と家庭での顔が異なるように）。大人も子どももいろいろな社会に所属し刺激を受けながら育っていくものですが、「良くない顔」を持っているのなら早めに直さなくてはいけませんね。登下校の様子など、たまに車でぷらっと様子を見ていただくのも良いかもしれません。また、「よんかけパトロール」にご参加いただくと、他の児童の登下校の様子も含めてご覧いただけると思います。

●いじめに繋がりそうなあだ名でお友達を呼んでいるのが気になる。人の名前はおもちゃではないと教育してほしい。また、「〇〇(おかしやゲーム)をくれないと(貸さないと)友達やめるぞ」と脅し文句のような言葉を使う子がいる。人のものと自分の物の区別ができていない印象。

川上より～コロナ禍の3年あまり、人と人との関わりは「密」を避けざるを得ず、ずいぶんと遠くなりました。学校でも、授業での話し合い活動やグループ活動は極めて少なくなり、学校行事も縮小や休止となりました。もちろん安全・安心を求めた選択ではありましたが、この間に失ったものは多かった。何より、活動の裏や合間で行われていた「友達と意見を出し合う」「多様性を受け入れ尊重する」「強い意志で主張する」「我慢する」「(良い意味で) あきらめて、気持ちを切り替える」「妥協点を見出す」「仲直りする」「謝る」「友達をフォローする」などといったことが充分にできなかった、この影響は大きいと感じています。子どもは、家庭で・学校で・地域で‥‥様々な場を行き来し､様々な経験を積み重ねながらながら育ちます。これからも皆さんで子どもの成長を支援していけるよう、協力をお願いします。

◇◇校長室から◇◇　**学習発表会は**

学習発表会の観客席を、こんな感じでセッティングしてあります。

体育館で参観の前には、ご来校の順に一旦1階多目的室に入って並んでいただき、発表の時間が来たらご案内する流れとなっていますので、ご協力をお願いします。

前方がゴザ席（座布団持参をお勧めします)、後方がイス席、最後方がビデオゾーンです